



医療法人清風会

- *茨木病院
- *地域活動支援センター菜の花
- *菜の花障害者相談支援センター
- *就労支援センターonwArk（オンワーク）
- *訪問看護ステーション そよかぜ

— Contents 目次 —

- 1.新入職者紹介
- 2.マレーシア就労支援研修の受け入れ
- 3.みしま・まちの玉手箱
- 4.新任医師紹介
- 5.茨木市精神障害者相談支援センター研修会
- 6.家族の集い
- 7.法人講演会・院内研修

2019年度 新入職者紹介

JR総持寺駅が開通して1年が経ちましたが、今も茨木病院周辺の人の流れと街並みに変化が続いています。そして今年は、平成から令和へ元号が変わる大きな節目の年です。暖かい風と共に桜が咲き始める中、清風会に医師1名、看護師4名、看護助手6名、医療事務員2名の新入職者が加わりました。

4月1日に、新入職者を対象とした法人の新人研修が行われました。院長から法人理念と基本方針、倫理要綱について、各部署の責任者からはそれぞれの事業と日々変化する医療安全、接遇、感染管理について説明がありました。医療従事者として、法人内における自身の役割について自覚できる機会になったと思います。

4月2日は看護部から、看護理念、看護部組織・機能、教育について講義が行われました。これから働く病棟、各部署の見学もあり、表情からは緊張感が伝わってきました。4月3日は看護部実地委員会主催の新人看護師実技研修が行われました。研修内容は配薬業務、排泄介助といったすぐに携わるものから、精神科看護師に必要な専門的看護、大粒の汗と手の震えが止まらなかった採血練習といった様々なものでした。3日間の研修が終わり、疲れも見え隠れしましたが、憧れの看護師として最初の一步が踏み出せた実りある研修になったことと思います。





～マレーシアから就労支援の研修に来られました！～



清風会では2018年よりマレーシアからJICA（海外青年協力隊）の研修受け入れを行っていますが、今年も2月27日に14名の方が来られました。メンバーは厚生労働省や病院などで活躍されている方々で、精神障がいにおける就労支援の発展のために日本の就労支援を学びに来られました。研修では当院の理事長や事務局長から「精神科病院の成り立ち」や「医療法人で就労支援を始めるきっかけになったエピソード」、デイケアセンターと就労支援センターオンワークのスタッフからは「医療法人における就労支援の特徴」をお伝えしています。マレーシアの方々からたくさんの質問が出て、これから発展させていこうとする熱意を感じました。私たちも良い刺激を受けることができたので、気を引き締めて頑張っていこうと思いました。



～みしま・まちの玉手箱に出店～



2019年2月25日（土）みしま・まちの玉手箱に、デイケアセンター・就労支援センターオンワークの2施設より出店しました。デイケアセンターは例年通りコロコロパンケーキを出店。今回初めての出店となるオンワークからはベーカリーカフェペコロスで提供しているパン販売を行いました。どちらも売れ行きが好調で、閉店前に完売することができました。利用者も出店メンバーとして参加し、慣れない場所での接客や声かけなど精力的に動いていました。パン・パンケーキ共に好評で、来年も参加したいと思います。



新任医師紹介

本年 4 月より勤務することになりました河邊有哉^{かわべゆうや}と申します。

大学院を経たことで臨床から離れていたのも、改めて新しいことに会う今の毎日に充実感を感じています。ご迷惑をお掛けすることも多々あるかと思いますが、1 日も早く茨木病院というチームの一員として認められるように努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



茨木市精神障害者相談支援センター研修会のご報告

2019 年 3 月 18 日、菜の花主催の研修会を市役所にて行いました。

講師 大阪府立砂川厚生福祉センター 自立支援第二課（つばさ）

地域移行総括主査 木村 隆之 氏

特定非営利活動法人 エソラ 業務執行役員代表 理事長 田村 哲也 氏

講師 2 名をお招きし、反社会性・非社会性の行動がある障がい者への支援について研修を行いました。「つばさ」では、認知行動療法に基づいた特別支援プログラムを実践し、利用者個々の課題解決に向けて取り組みをされています。また、地域移行に向けての見極めを行い、地域生活の体験や支援ネットワークの構築を通して、利用者が地域で生活ができるように支援をされているとのことでした。

茨木市内でグループホームの運営をされているエソラからは、事例を交えて実際の支援内容や利用者の生活について講演をしていただきました。当日は 50 名程の参加で、有意義な研修を行うことができました。



家族の集い

2018 年 10 月より発起した当院の家族の集いですが、このたび第 2 回目を 2019 年 3 月 2 日に開催しました。総勢 45 名の参加がありました。当院の訪問看護ステーション「そよかぜ」で所長を務め、現在は本館 3 階病棟師長の古本直己を講師とし、『病気の家族を支えるために～すぐに使えるコミュニケーションのコツ～』をテーマに講演会を実施しました。

心を病む人の苦しさの背景や、心のゆとりを取り戻す段階について、家族がどのようにその人の辛さを受容していけるのか等を資料やロールプレイにして、古本師長の体験も踏まえながらの具体的な話でした。

また、後半では 6 つのグループに分かれ、ご家族同士が交流できる場を設けました。みなさん始めは緊張されているようでしたが、自己紹介が終わると、少しずつご自身のことや家族のことを話し始め、最後には時間が足りないくらいでした。普段誰に相談していいかわからないようなことも、ここでなら安心して話ができるという場を目指して運営を続けていきたいと思います。大勢のご参加ありがとうございました。

次回のお知らせ

日時：5 月 31 日（金）13:30～15:30（開場 13:00）

場所：茨木病院 6 階ホール

内容：「家族に知ってもらいたい訪問看護」

講師：訪問看護ステーションそよかぜ 所長 三澤 康雄

対象：当院入院・通院中の患者様のご家族、デイケアセンター通所中のご家族であればどなたでも



法人講演会



2019年2月25日、第6回目となる法人講演会を実施しました。栄養科、検査室、オンワーク、看護部よりそれぞれ業務内容や今後の見通し等の報告がありました。

栄養科からは栄養科業務と書類について、普段栄養科が作成しているアセスメントシートや、栄養管理計画書について説明がありました。検査室からは検査のステップ、採血検査時の注意点等の報告。オンワークからは、多機能になってからの1年間の歩みの報告がありました。就労継続B型支援事業、就労定着支援事業、就労移行支援事業の3つの安定運営を目指して今後についての運営方針が報告されました。最後に看護部から暴力事故防止の対策として、「ホール番」を導入し、ホールで一緒に患者さんと過ごすことでの、患者さんへの効果やスタッフ側の効果について伝えてもらいました。今後もより風通しの良い運営を目指して、各部署取り組んでいきたいと思ひます。

院内研修

退院支援の本来のあり方を考える
～明日から使える患者中心のケアモデル～

講師：医療法人小憩会 ACT-ひふみ
精神科認定看護師 加藤由香氏

2019年3月18日、長期入院患者さんの退院支援の在り方について加藤氏に講義頂きました。精神科病院勤務の経験も含め、なぜ長期入院に至ったのかという背景を考えると、看護職の強みを活かした退院支援を実践し、ストレングスを引き出すことで、本人の思い中心のプランニングをしていくことの重要さを改めて学びました。

その中で院内の連携をシステム化することが、多職種連携がスムーズにできるポイントになることや、福祉との連携という点で地域移行支援事業を利用することも大事だということ、また地域が必要としている情報提供の方法として、看護サマリーについても助言頂きました。

今後、当院の退院支援に活かしていきたいと思ひます。



茨木病院 外来案内

月	火	水	木	金	土
高橋(幸)	高橋(大)	岩井	つじ 街	高石	村木
荻野					岩井 第24のみ
河邊					

診療時間：初診・再診 予約制

休診日：日曜、祝祭日、年末年始（12月29日～1月3日）

〒567-0801

大阪府茨木市総持寺1丁目4番1号

TEL 072-622-2721(代) / FAX 072-621-7092

□発行：医療法人清風会 広報委員会

□発行年月日：2019年5月20日

□HP：<http://www.seifukai.org>



編集後記

今年は平成最後の年であり、令和元年でもあります。そんな記念すべき年に茨木病院でランニング部を結成しました。

走り始めたきっかけは、ろくな練習もせず10年前の東京マラソンに出場した時、走る気持ちよさと周囲からの応援に魅力を感じたことです。個人で楽しむ日々が続いていましたが、チームリレーマラソンに出場したことで協力して走るという、新しい楽しみ方を発見しました。日々の練習にも力が入るようになり、充実した生活が送れています。心身ともに鍛えて、これからの仕事の糧にしたいと思ひます。



広報委員 江崎 陽平

受診や面会などで駐車場（菜の花横のコインパーキング：東洋カーマックス）をご利用の際は、駐車券を受付でご提示ください。サービス券をお渡しします。なお、タイムズ駐車料金の割引はできませんのでご注意ください。